

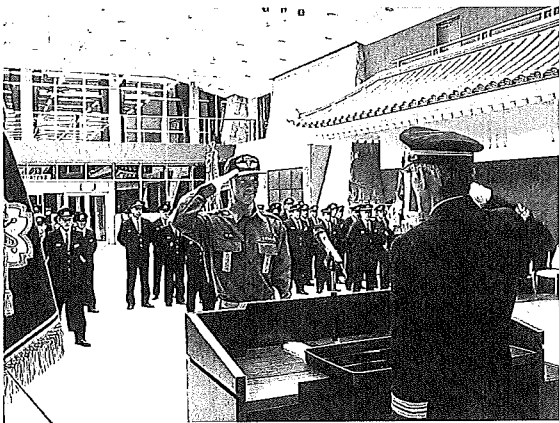
消防団の責務遂行を誓って

—平成27年度南丹市消防団

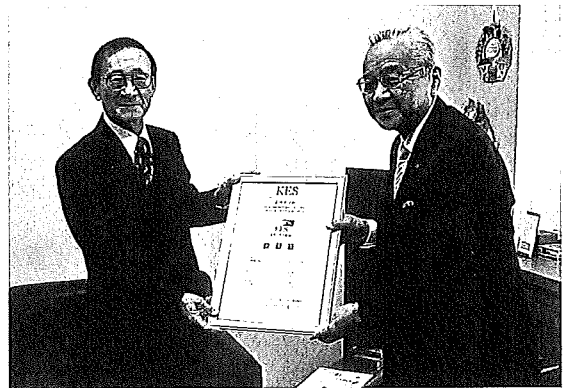
入退団式及び辞令交付式—

4月1日、国際交流会館で、平成27年度南丹市消防団入退団式及び辞令交付式を挙りました。

本年度は、長年にわたり活躍された41人が退団し、新たに39人が入団しました。式では、新入団員代表の山崎健史さんが、小林敏雄団長から辞令の交付を受けたあと、「日本国憲法を擁護し、命令・条例・規則を順守し、不公平や偏見を避け、良心に従い忠実に消防の義務を遂行します」と誓いの言葉を述べました。



▲誓いの言葉を述べ、団長に対し敬礼



▲津村専務理事(左)から佐々木市長へ登録証が手渡されました

環境基準達成で登録証交付

—KES・環境マネジメント

システム登録証交付—

4月1日、NPO法人KES環境機構の津村昭夫専務理事から、同法人が定める環境基準「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」のステップ1の達成を認められ、登録証の交付を受けました。市では、同システム登録に向けた取り組みを進め、本庁、支所のエネルギーなどの年間使用量を平成25年度の実績から1〜5%削減する目標を設定し、昨年10月から達成状況の進捗管理を実施していました。

市消防団員の処遇の改善と新しい積載車の配備を求め

—南丹市消防委員会答申—

3月16日、南丹市消防委員会の森為次会長から、佐々木市長に答申書が提出されました。

答申では、近年の気象状況や災害対応における出動回数増加に鑑み、市消防団員の処遇改善のため、出動・警戒・訓練手当を年額4千円に改定することや、消防小型動力ポンプ積載車の配備について、軽トラックタイプに加え、配備先と協議を行い軽デッキバンタイプについても選択できるように答申がなされました。



▲佐々木市長に答申を行う森会長



▲蜷川氏や桐野河内、蟠根寺などについて解説する福島さん

幕府御料所桐野河内を解説

—南丹市歴史講座

—なんとんヒストリア—

3月14日、南丹市歴史講座なんとんヒストリアが園部公民館で開催され、市民ら40人が参加しました。講師の大山崎町歴史資料館学芸員の福島克彦さんは、室町時代に「桐野河内」(園部町佐切、高屋、熊原ほか広域な地域)を治めた蜷川氏と同地域について、古文書や地図、園部町高屋の蟠根寺跡図などを用いて解説。丹波の人々の自立や、桐野河内が室町幕府の御料所の景観を残す貴重な荘園遺跡であると話されました。

※御料所…天皇や幕府などの直轄地